

様式1-1

大学等名	湘北短期大学
プログラム名	湘北数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

総合ビジネス・情報学科、生活プロデュース学科

③ 修了要件

1年次前期必修科目「情報リテラシー（データサイエンス入門）」の2単位を取得すること。

必要最低科目数・単位数

1

科目

2

単位

履修必須の有無

令和6年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報リテラシー（データサイエンス入門）	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報リテラシー（データサイエンス入門）	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報リテラシー（データサイエンス入門）	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報リテラシー（データサイエンス入門）	2	○	○	○					

- ⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報リテラシー(データサイエンス入門)	2	○	○	○	○						

- ⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

- ⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット：「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(6回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化：「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(6回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会：「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(6回目)
	1-6	・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、生成AIなど)：「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(6回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)：「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(8回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど：「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(6回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)：「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(6回目) ・データのオープン化(オープンデータ)：「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(10、12、13回目)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)：「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(8回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど：「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(8回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など：「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(8回目)
(3) 様々なデータ利用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見など：「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(6、7回目) ・データ可視化：複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化など：「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(11、14回目)
	1-5	・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)：「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(9～15回目) ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介：「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(8回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(8回目) ・個人情報保護: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(8回目) ・データ倫理: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(8回目) ・データバイアス: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(8回目) ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫 など): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(5回目)
	3-2	・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(5回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(7回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(7回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(7回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(7回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(7回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(9～15回目) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(7回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(9～15回目) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(2、3回目)
	2-3	・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(7、9～15回目) ・データの集計(和、平均): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(2、3、7、9～15回目) ・データの並び替え、ランキング: 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(7、9～15回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(9～15回目) ・表形式のデータ(csv): 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」(2、9～15回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・現代社会において必要となる数理・データサイエンス・AIの基礎的素養、知識、技能を主体的に身につけ、日常生活や仕事等の場で実践的に活用することができる。
- ・数理・データサイエンス・AIの知識、技能の恩恵を享受できるようになるとともに、これらを活用するにあたっては、公平性・公正性の観点を常に持ち、人間中心の適切な判断や説明ができるようになる。

様式1-2

大学等名	湘北短期大学
プログラム名	湘北数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

保育学科

③ 修了要件

2年次通年必修科目「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」の1単位を取得すること。

必要最低科目数・単位数

1 科目

1 単位

履修必須の有無

令和6年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
保育のためのICT・DX入門Ⅱ	1	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
保育のためのICT・DX入門Ⅱ	1	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
保育のためのICT・DX入門Ⅱ	1	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
保育のためのICT・DX入門Ⅱ	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
保育のためのICT・DX入門Ⅱ	1	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット：「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(1回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化：「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(1回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会：「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(1回目) ・人間の知的活動とAIの関係性：「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(8回目)
	1-6	・AI最新技術の活用例(生成AIなど)：「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(8回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)：「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(8回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データなど：「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(3,4回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)：「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(10回目)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)：「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(2回目)
(3) 様々なデータ利用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・非構造化データ処理：言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など：「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(8、10～15回目) ・自動化技術：「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(15回目)
	1-5	・データサイエンスのサイクル(データの取得・管理・加工)：「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(1回目) ・教育、サービス等におけるデータ・AI活用：「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(8回目) 事例紹介：「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(8回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues): 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(9回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護: 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(1回目) ・AIサービスの責任論: 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(9回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介: 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(9回目) ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫 など): 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(9回目)
	3-2	・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介: 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(9回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数): 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(4回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値): 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(4回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い): 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(4回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値): 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(4回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図): 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(4～7回目) ・データの比較(条件をそろえた比較): 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(5～7回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素): 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(5回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など): 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(5回目) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど): 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(7回目)
	2-3	・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法): 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(3回目) ・データの集計(和、平均): 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(5～7回目) ・データの並び替え、ランキング: 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(5～7回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール): 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(5～7回目) ・表形式のデータ(csv): 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」(5～7回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・現代社会において必要となる数理・データサイエンス・AIの基礎的素養、知識、技能を主体的に身につけ、日常の生活や仕事等の場で実践的に活用することができる。
- ・数理・データサイエンス・AIの知識、技能の恩恵を享受できるようになるとともに、これらを活用するにあたっては、公平性・公正性の観点を常に持ち、人間中心の適切な判断や説明ができるようになる。

大学等名 湘北短期大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 34 人 (非常勤) 82 人

② プログラムの授業を教えている教員数 2 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) 高橋洋

(役職名) 学長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループ

(責任者名) 高嶋章雄

(役職名) リベラルアーツセンター長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループ設置要綱

⑥ 体制の目的

湘北短期大学数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループは、以下の業務を所管する

- (1) 当教育プログラムの具体的な内容に関する協議・検討
- (2) 当教育プログラムの計画(当教育プログラムにおいて身に付けることのできる能力、修了要件、開設される授業科目、授業の方法、及び内容等)の策定並びに実施体制の構築、及びそれらの公表
- (3) 学生に対し当教育プログラムの履修を促す取組の協議・検討、及び実施
- (4) 当教育プログラムについての点検及び評価、その結果の公表

⑦ 具体的な構成員

高嶋章雄 リベラルアーツセンター長(責任者)
 矢沢隆 教務・学生部部長(副責任者)
 小林良向 IR室長
 泉屋咲月 生活プロデュース学科
 小笠原大輔 保育学科
 北野俊之 教務・学生部
 高橋博子 教務・学生部

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	24%	令和7年度予定	67%	令和8年度予定	80%
令和9年度予定	90%	令和10年度予定	100%	収容定員(名)	960

具体的な計画

湘北短期大学は総合ビジネス・情報学科、生活プロデュース学科、保育学科からなる総合短期大学である。各専門分野での実務において重要な役割を果たすと考え、全学科で数理・データサイエンス・AIに関する科目を、必修科目として位置づけている。

総合ビジネス・情報学科および生活プロデュース学科においては、1年次前期の必修科目として「情報リテラシー(データサイエンス入門)」を開講する。PCを操作する内容も含むため、全15回のオンデマンド科目とし、自由な時間に何度でも動画を見直ししながら学習を進められるようにしている。

保育学科においては、基本的なPCスキルを学ぶ1年次通年隔週で開講する「保育のためのICT・DX入門Ⅰ」の発展として、2年次通年隔週で開講する「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」を開講している。本教育プログラムが対象とする科目は「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」とする。令和6年度以降の全入学生が本プログラムの履修対象学生となる。総合ビジネス・情報学科と生活プロデュース学科の学生は、令和6年度に対象科目の履修を終え、保育学科の学生は、令和7年度に対象科目の履修を終えることとなる。

収容定員ではなく在籍者数を母数とした場合の履修率は、令和7年度以降100%となる。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本教育プログラムを構成する「情報リテラシー(データサイエンス入門)」および「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」は、各学科の卒業要件に含まれる必修科目として開講している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

入学後のガイダンスや学生向けの情報ポータルにおいて、本教育プログラムの内容を周知している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本教育プログラムを構成する全科目は、講義資料をLMSで管理・提供している。「情報リテラシー（データサイエンス入門）」は、学外のインストラクショナルデザインの専門家に協力を仰ぎ、50件の動画を中心としたオンデマンド科目として、学生が繰り返し学習可能な環境を提供している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

対面で実施する科目は授業中や授業後に質問を受け付けている。オンデマンド科目はLMSを通じて質問を受け付けるとともに、担当する常勤教員がオフィスアワーを中心に対面での質問を受け付けている。また、本学にはPCやIT機器を利用する上でわからないことを学生が気軽に相談できる「ITコンシェルジュ」が常駐しており、学修を妨げない範囲でITに関するトラブル解決を行っている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループ

(責任者名) 高嶋章雄

(役職名) リベラルアーツセンター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループおよび教務・学生課において本プログラムの履修・単位修得状況を分析している。令和6年度終了時点で、総合ビジネス・情報学科および生活プロデュース学科の学生が受講できる「情報リテラシー(データサイエンス入門)」が終了している。単位修得率は87.9%(203/231名)であった。このうち、開講期中または期後に休学もしくは退学した学生を除くと単位修得率は98.5%(203/206名)となる。
学修成果	担当教員はLMSを通じて学生の進捗を常に把握しており、担当教員および数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループにおいて本プログラムの履修・単位修得状況を分析している。 「情報リテラシー(データサイエンス入門)」は、全15回(動画・課題提出・小テストを含む全94レクチャー)のオンデマンド科目であり、LMSへのログイン状況、動画閲覧状況、課題提出状況を教員が常にモニタリングし、進捗の芳しくない学生にはメール等でリマインドした。学修成果を確認する小テストを25件設け、テストをクリアしない限り先のレクチャーに進めない仕様としているため、全レクチャーに取り組んだ学生は一定の学修成果を有していると考えられる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	教務・学生課において本教育プログラム受講者全員に対して授業改善アンケートを実施している。また、リベラルアーツセンターにおいて、オンデマンド科目の受講スタイルに関するアンケートを実施している。数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループにおいて各アンケート結果を分析している。 令和6年度の「情報リテラシー(データサイエンス入門)」においては、授業改善アンケートの設問「この授業の目的とする知識や技能、考え方が身についたか」「この授業を通じて自分が以前より成長できたか」において、4段階評価で肯定的な意見が、それぞれ92%を超える結果となった。学生の自己評価として、各自が内容を理解できたと考えられる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	令和6年度の「情報リテラシー(データサイエンス入門)」の授業改善アンケートの設問「授業の内容は興味深いものであったか」において、88.4%の肯定的な意見が得られた。後輩等への推奨度を直接調査したものではないが、多くの学生にとって履修する価値のある内容として受け入れられたと考えられる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムを構成する「情報リテラシー(データサイエンス入門)」および「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」は、各学科の卒業要件に含まれる必修科目として開講している。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムを修了した学生が卒業するのは令和7年度末が初めてとなり、進路についても今後判明する状況である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学卒業生がターゲットとする就職先の内、事務職やSEはもとより、人と人とのコミュニケーションが重要視される接客業や保育の現場においても、本プログラムの学修内容が重要視されている。過去の来店データに基づく顧客との対面コミュニケーションの円滑化や、午睡センサーを利用した園児の安全確保など、質の高いサービス提供の事例が増えつつある。生成AI関連技術の急速な発展も注視しつつ、学生にとって有益な情報を提供できるようプログラムの内容を、数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループにおいて継続点検する。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本教育プログラムは、各学科必修科目のみで構成されており、もともと興味を持っていない学生も一定数含まれる。そのため、産業界からの視点だけでなく、学生目線の身近な事例なども散りばめて、数理・データサイエンス・AIに関する知識やスキルを自然と理解できるような授業を展開している。結果として上述した複数の設問において肯定的な意見が得られたと考えられる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	オンデマンド科目においては、授業設計段階から学外のインストラクショナルデザイナーに協力を仰ぎ動画制作や課題設定を構成した。受講スタイルに関するアンケートから、オンデマンド形式に関して79.5%の肯定的な意見が得られた。授業改善アンケート等で得られる情報や、本教育プログラム以外の授業内容・スタイルも参考にし、分かりやすさの観点から授業およびプログラムを、数理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループにおいて継続点検する。

シラバス検索

履修計画についての説明

[履修計画 \(PDF\)](#)

検索条件設定 (特に明記のない限り、テキスト項目は中間一致検索)

開講年度

2024

講義コード

講義名称

情報リテラシー（データサイエン

学則科目名称

講義開講時期

選択なし

担当教員

科目名（英語名）

対象学科等

選択なし

学年

選択なし

キーワード

以上の条件で検索

クリア

該当件数 1件 (1 - 1 件目を表示)

＜前ページ 1 次ページ＞								
	講義コード	講義名称	学則科目名称	講義開講時期	担当教員	科目名（英語名）	対象学科等	学年
選択	R6LA0401	情報リテラシー（データサイエンス入門）	情報リテラシー（データサイエンス入門）	前期	高嶋 章雄	Information Literacy	リベラルアーツ科目(1年)	1年
＜前ページ 1 次ページ＞								



シラバス参照

講義名	情報リテラシー（データサイエンス入門）
講義開講時期	前期
科目名（英語名）	Information Literacy
対象学科等	リベラルアーツ科目（1年）
学年	1年

担当教員

氏名

◎ 高嶋 章雄

秋山 純一

単位数	2単位
授業方法	講義
ナンバリング	110（リベラルアーツ基礎）
カリキュラムマップ（強い関連性がある学修成果）	S2, B4, BC1
カリキュラムマップ（関連性がある学修成果）	S3, S4, BC2, BC5, BC7, BC14, L1, L3, L5
SDGs	内容を扱う：4, 9
実務経験の区分	—
教員の实務経験について	—
実務経験の授業への活かし方	—
授業で取り入れているアクティブラーニングの要素について	—
ICTの活用について	動画教材を用いたオンデマンド科目です。 一部eラーニングシステムで課題を提出します。
履修条件、準備等	学内または家庭のPCを利用した作業を個人で実施できること。
授業の具体的到達目標	・大学生活に必要なICTを活用し、コミュニケーションおよび情報の取得・創出・管理・発信ができるようになります。 ・情報を扱う上で注意すべき点を、セキュリティ・モラル・著作権に関して説明できるようになります。 ・データサイエンス・AIとは何かを説明し、社会においてどのように活用されているかを例示することができるようになります。
授業の概要	全15回のオンデマンド科目です。 前半（1～8回）は、情報の取扱い・データサイエンス・AIに関する知識習得、後半（9～15回）はデータ活用のための実践演習となります。 高度に情報化され「創造の時代」と言われるSociety 5.0の今日、AIやデータサイエンスの活用は不可欠となっています。現代社会におけるコンピュータやインターネット、さらには情報の役割と意義について考え、学生および社会人として必要な知識と技能を身につけます。

授業計画表

	授業計画	授業時間外の学習（予習・復習の内容）	担当者
1回	大学生活で利用する情報システム1	ポータルサイト/LMS/メール/zoomに関する作業（4時間）	高嶋章雄
2回	大学生活で利用する情報システム2	Google Workspace（ドライブ・ドキュメント・スプレッドシート・スライド）に関する作業（4時間）	高嶋章雄
3回	大学生活で利用する情報システム3	レポートの書き方/Googleフォームに関する作業（4時間）	高嶋章雄
4回	情報の取り扱い1	コンピュータ/情報理論/インターネットに関する作業（4時間）	高嶋章雄
5回	情報の取り扱い2	情報モラル/情報セキュリティ/著作権に関する作業（4時間）	高嶋章雄
6回	社会におけるデータ・AI利活用1	ビッグデータ・IoT・5G/機械学習・AIに関する作業（4時間）	高嶋章雄

7 回	社会におけるデータ・AI活用2	基本統計量/代表的なデータ解析に関する作業（4時間）	高嶋章雄
8 回	データ・AI活用における留意事項	データ・AI活用事例・分類/データと倫理に関する作業（4時間）	高嶋章雄
9 回	データ活用実践1	スプレッドシートの基本操作（ショートカット、カレンダー、グラフ）に関する作業（4時間）	高嶋章雄
10 回	データ活用実践2	オープンデータ、クレンジング、グラフに関する作業（4時間）	高嶋章雄
11 回	データ活用実践3	数式のオートフィル、関数、ばらつきの可視化に関する作業（4時間）	高嶋章雄
12 回	データ活用実践4	大量データ、オートフィルタ、ヒストグラムに関する作業（4時間）	高嶋章雄
13 回	データ活用実践5	オープンデータの組み合わせ・散布図に関する作業（4時間）	高嶋章雄
14 回	データ活用実践6	相関分析・相関分析によるレコメンデーション・単回帰分析に関する作業（4時間）	高嶋章雄
15 回	データ活用実践7	質的データとクロス集計に関する作業（4時間）	高嶋章雄
試験等	試験は実施しない		

成績評価	動画の視聴状況・eラーニングの取り組み・課題提出状況により単位取得の可否を決定します（グレードによる評価（AA～C）は行いません）。
課題（試験やレポート等）へのフィードバック	各回の内容ごとに、担当教員がメールや口頭で質問を受け付けます。 大学のICT環境に関する質問は、図書館ICTコンシェルジュでも受け付けます。

テキスト

	書名	著者	ISBN	出版社
1				
2				
3				

参考文献

	書名	著者	ISBN	出版社
1	大学一年生のための情報リテラシー	小棹理子 他	9784621302798	丸善出版株式会社
2	基礎からわかる情報リテラシー	奥村晴彦, 森本尚之	9784297117108	技術評論社
3	はじめてのAIリテラシー	岡嶋裕史, 吉田雅裕	9784297120382	技術評論社

備考	授業の動画配信、課題の提示から一定期間内に課題を提出すること。原則として、提出期限後の提出は評価しませんので注意してください。 動画の視聴や課題提出をもって出席とみなします。 オフィスアワーを設定します。時間は教員の研究室扉に貼りだします。 大学のICT環境に関する質問は、図書館ICTコンシェルジュでも受け付けます。 必要に応じて対面での質問会を実施します。湘北ポータルにて連絡します。
----	--

ルーブリック

リベラルアーツ科目のみ

	評価項目	すばらしい(100%)	惜しい(50%)	残念(0%)
1				
2				
3				
4				
5				

シラバス検索

履修計画についての説明

[履修計画 \(PDF\)](#)

検索条件設定 (特に明記のない限り、テキスト項目は中間一致検索)

開講年度

2025

講義コード

講義名称

保育のためのICT・DX入門Ⅱ

学則科目名称

講義開講時期

選択なし

担当教員

科目名 (英語名)

対象学科等

選択なし

学年

選択なし

キーワード

以上の条件で検索

クリア

該当件数 4件 (1 - 4 件目を表示)

<前ページ 1 次ページ>								
	講義コード	講義名称	学則科目名称	講義開講時期	担当教員	科目名 (英語名)	対象学科等	学年
選択	R6312001	保育のためのICT・DX入門Ⅱ	保育のためのICT・DX入門Ⅱ	通年	大内 里紗	Introduction to ICT and DX for childcare	保育学科	2年
選択	R6312002	保育のためのICT・DX入門Ⅱ	保育のためのICT・DX入門Ⅱ	通年	大内 里紗	Introduction to ICT and DX for childcare	保育学科	2年
選択	R6312003	保育のためのICT・DX入門Ⅱ	保育のためのICT・DX入門Ⅱ	通年	大内 里紗	Introduction to ICT and DX for childcare	保育学科	2年
選択	R6312004	保育のためのICT・DX入門Ⅱ	保育のためのICT・DX入門Ⅱ	通年	大内 里紗	Introduction to ICT and DX for childcare	保育学科	2年
<前ページ 1 次ページ>								



シラバス 参照

講義名	保育のためのICT・DX入門Ⅱ
講義開講時期	通年
科目名（英語名）	Introduction to ICT and DX for childcare
対象学科等	保育学科
学年	2年

担当教員

氏名

◎ 大内 里紗

単位数	1単位
授業方法	演習
ナンバリング	510（専門科目基礎）
カリキュラムマップ（強い関連性がある学修成果）	P2
カリキュラムマップ（関連性がある学修成果）	S1, S4, P1
SDGs	到達目標:4, 内容を扱う:3, 8
実務経験の区分	—
教員の実務経験について	—
実務経験の授業への活かし方	—
授業で取り入れているアクティブラーニングの要素について	グループワーク
ICTの活用について	Eラーニングの活用
履修条件、準備等	各自 USBメモリー（2GB 以上）を準備し、毎回の授業に持参すること。USBメモリーについては授業内で説明する。
授業の具体的到達目標	データに基づき、データを根拠とした情報や考えを伝えたり、情報を読み取る能力として情報リテラシーを身につける。
授業の概要	情報処理の入門としてコンピュータ操作の初歩を学ぶ。とくに、保育現場での活用を前提とした実践的な内容を重点的に扱う。デジタル社会の中で生活者及び保育者として必要なデータサイエンスに関連した基礎を習得する。AIに関する知識を学び、その扱いにおける基本的な知識の習得を目指す。 ※この科目は、本学の初年次教育科目（多様な学生の能力を伸長させる取り組み）として位置づけられています。

授業計画表

	授業計画	授業時間外の学習（予習・復習の内容）	担当者
1 回	データベース・ICT・AIの活用領域の広がりや、最新技術について学ぶ	ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット、データサイエンスのサイクル（データの取得・管理・加工）、データ倫理等に関する作業（1時間）	大内 里紗
2 回	Excelの基本（基本操作、計算式、表の作成、グラフの作成など）	データ・AI活用領域の広がり（生産、消費、文化活動など）等に関する作業（1時間）	大内 里紗
3 回	Excelの基本 実データを用いた情報／データリテラシーの基礎「待機児童数の可視化」（Excelによる図表の作成、提出）	調査データ、実験データなど、データの取得（機械判読可能なデータの作成・表記方法）等に関する作業（1時間）	大内 里紗
4 回	Excel実データに基づく情報／データリテラシー演習「成長曲線・散布図」①（データの種類の読み取り、作成）	データの種類の、データの分布と代表値、代表値の性質の違い、データのばらつき、データ表現等に関する作業（1時間）	大内 里紗
5 回	Excel実データに基づく情報／データリテラシー演習「グラフの考察」①（図表の作成・考察）	データ表現、データの比較、グラフ表現、データの集計、データの並び替え、ランキング、データ解析ツール、表形式のデータ（csv）等に関する作業（1時間）	大内 里紗

6 回	Excel 実データに基づく情報／データリテラシー演習「グラフの考察」②(図表の作成・考察)	データ表現、データの比較、データの集計、データの並び替え、ランキング、データ解析ツール、表形式のデータ（csv）等に関する作業（1時間）	大内 里紗
7 回	Excel 実データに基づく情報／データリテラシー演習「グラフの考察」③(図表の作成・考察、PDF化、印刷)	データ表現、データの比較、データの集計、データの並び替え、ランキング、データ解析ツール、表形式のデータ（csv）等に関する作業（1時間）	大内 里紗
8 回	データ・AI利活用の最新動向 データ・AI利活用のための技術	人間の知的活動とAIの関係性、AI等を活用した新しいビジネスモデル、非構造化データ処理（言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など）等に関する作業（1時間）	大内 里紗
9 回	データ・AIを扱う上での留意事項 データを守る上での留意事項（生成AIに関する留意事項を含む）	倫理的・法的・社会的課題、生成AIの留意事項、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例等に関する作業（1時間）	大内 里紗
10 回	非構造化データの理解①「非構造化データとは」	構造化データ、非構造化データ処理（言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理）等に関する作業（1時間）	大内 里紗
11 回	非構造化データの理解②「言語処理」（テキスト解析）	非構造化データ処理（言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理）等に関する作業（1時間）	大内 里紗
12 回	非構造化データの理解③「音楽処理」（音楽編集）	非構造化データ処理（言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理）等に関する作業（1時間）	大内 里紗
13 回	保育ドキュメンテーション①「画像処理」を含む	非構造化データ処理（言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理）等に関する作業（1時間）	大内 里紗
14 回	保育ドキュメンテーション②「画像処理」を含む	非構造化データ処理（言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理）等に関する作業（1時間）	大内 里紗
15 回	保育ドキュメンテーション③「まとめ」	非構造化データ処理（言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理）等に関する作業（1時間）	大内 里紗
試験等			大内 里紗

成績評価	授業中に実施した課題（Word、Excel、Power Pointを活用したもの）の出来とタッチタイピング記録表を基準とし、そこに授業態度等を加味して総合的に評価する。
課題(試験やレポート等)へのフィードバック	課題の評価について希望者には公表し、諸々の説明を行う

テキスト				
	書名	著者	ISBN	出版社
1				
2				
3				

参考文献				
	書名	著者	ISBN	出版社
1				
2				
3				

ルーブリック				
リベラルアーツ科目のみ				
	評価項目	すばらしい(100%)	惜しい(50%)	残念(0%)
1				
2				
3				
4				
5				

Ⅳ 教 育 課 程 表

総合ビジネス・情報学科

2024年度入学生

総合ビジネス・情報学科 教育課程表(2024年度入学生)

区 分		コ ー ド	授 業 科 目	授業種別			単 位 数	ビ ジ ネ ス 情 報	経 理 ・ 金 融	シ ョ ッ プ マ ネ ジ メ ン ト	オ フ ィ ス ワ ー ク	観 光	留 学	プ ロ グ ラ ミ ン グ	メ デ ィ ア デ ザ ィ ン	科 目 の 区 分	開 講 年 次				
				講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技											1 年		2 年		
																	前 期	後 期	前 期	後 期	
リ ベ ラ ル ア ー ツ 科 目	必修 科目 群	22LA00	日 本 語 リ テ ラ シ ー I	○			2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	基	○				
		22LA02	日 本 語 リ テ ラ シ ー II	○			2	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	基		○			
		22LA02	日 本 語 リ テ ラ シ ー II (留)	○			2						◎			基			○		
		R6LA04	情報リテラシー(データサイエンス入門)	○			2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	基	○			
		22LA08	生 涯 ス ポ ー ツ と 健 康 I			○	1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	基	○			
		22LA10	生 涯 ス ポ ー ツ と 健 康 II			○	1	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	基		○			
		22LA10	生 涯 ス ポ ー ツ と 健 康 II (留)			○	1						◎			基				○	
	選 択 科目 群	R5LA50	湘北スタートアップセミナー	○			1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	基	○			
		R5LA05	生活に役立つ教養とSDGs	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	基		○		○
		R6LA60	社会生活のための基礎知識	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	基		○		○
		31LA70	日本語コミュニケーション	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	発			○	
		22LA24	現代社会と倫理	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	応			○	
		22LA26	社会と環境	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	応		○		○
		25LA35	メディア論 A	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	発			○	
		25LA35	メディア論 B	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	発		○		○
		31LA75	ファッション文化論	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	応		○		○
		R6LA01	日本の食文化	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	発		○		○
		R6LA03	住環境デザイン	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	発	開講せず			
		R6LA07	体験から学ぶ身近な心理学	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	発		○		○
		R6LA09	いのちをめぐる科学技術	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	発	開講せず			
		R6LA11	湘北リベラルアーツ I	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	発	○		○	
		R6LA13	湘北リベラルアーツ II	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	発		○		○
		R3LA80	暮らしの中のテクノロジー	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	応		○		○
		R3LA85	SNS と ダイバーシティ	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	応		○		○
国 際 理 解 科 目	26GC01	ジェネラル・イングリッシュ I		○		1	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	基	○					
	26GC02	ジェネラル・イングリッシュ II		○		1	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	基		○				
	26GC05	ジェネラル・イングリッシュ I・II		○		2						◎			基	○					
	26GC20	エッセンシャル・イングリッシュ		○		1	○	○	○	○	○	○	○	○	応			○			
	R6GC30	イングリッシュ・ライティング		○		2						◎			基	○					
	26GC40	アドヴァンス・イングリッシュ I		○		1	○	○	○	○	○	◎	○	○	発			○			
	26GC41	アドヴァンス・イングリッシュ II		○		1	○	○	○	○	○	◎	○	○	発				○		
	30GC50	T O E I C (初 級) A		○		1	○	○	○	○	○		○	○	資		○		○		
	30GC50	T O E I C (初 級) B		○		1	○	○	○	○	○	○	○	○	資	開講せず					
	30GC51	T O E I C (中 級)		○		1	○	○	○	○	○	○	○	○	資			○			
	R6GC60	海外研修			○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	発	○		○		
	R6GC70	中国語 (基 礎)		○		1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	基			○		
R6GC06	中国語 (実 践)		○		1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	応	開講せず					
R4GC71	韓 国 語		○		1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	基				○		
R4GC90	ベーシック・ビジネス英語	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	発				○		
イン ター ン シ ッ プ	26IS02	春季インターンシップ(長期)			○	2	○	○	○	○	○		○	○	○	応		○			
	26IS02	春季インターンシップ(長期)(留)			○	2						○			○	応				○	
	26IS04	春季インターンシップ(短期)			○	1	○	○	○	○	○		○	○	○	応		○			
	26IS04	春季インターンシップ(短期)(留)			○	1						○			○	応				○	
	R5IS01	夏季インターンシップ(長期)			○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	応	○				
	R5IS02	夏季インターンシップ(短期)			○	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	応	○				
	26IS05	インターンシップリテラシー	○			1	○	○	○	○	○		○	○	○	基		○			
	26IS05	インターンシップリテラシー(留)	○			1						○			○	基				○	
	30IS06	インターンシップティーチング		○		1	○	○	○	○	○		○	○	○	発				○	

総合ビジネス・情報学科 教育課程表(2024年度入学生)

区 分	コ ー ド	授 業 科 目	授業種別			単 位 数	ビ ジ ネ ス 情 報	経 理 ・ 金 融	シ ョ ッ プ マ ネ ジ メ ン ト	オ フ ィ ス ワ ー ク	観 光	留 学	プ ロ グ ラ ミ ン グ	メ デ ィ ア デ ザ ィ ン	科 目 の 区 分	開 講 年 次			
			講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技											1 年		2 年	
																前 期	後 期	前 期	後 期
就 業 力 育 成 科 目	R5BU01	私 の キャリア デザイン	○			2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	基	○			
	26BU02	キャリアベーシック (SPI)	○			2	○	○	○	○	○		○	○	基		○		
	R5BU05	私の就職活動プランニング		○		1	○	○	○	○	○		○	○	応		○		
	26BU04	キャリアブラッシュアップ	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	発				○
	30BU06	基礎教養のための数学演習		○		1	○	○	○	○	○	○	○	○	基	○			
	R5BU10	仕事に役立つPC演習(基礎)A		○		1	○	○	○	○	○	○	○	○	基			○	
	R5BU10	仕事に役立つPC演習(基礎)B		○		1	○	○	○	○	○	○	○	○	基				○
	R5BU07	仕事に役立つPC演習(応用)A		○		1	○	○	○	○	○	○	○	○	応			○	
	R5BU07	仕事に役立つPC演習(応用)B		○		1	○	○	○	○	○	○	○	○	応				○
	R3BU08	証 券 外 務 実 践	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	資				○
	R6BU09	PC 活 用 ベ ー シ ッ ク I		○		1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	基	○			
	R6BU11	PC 活 用 ベ ー シ ッ ク II		○		1	○	○	○	○	○		○	○	基		○		
専 門 																			

総合ビジネス・情報学科 教育課程表(2024年度入学生)

区分		コード	授業科目	授業種別			単位数	ビジネス情報	経理・金融	ショッピングマネジメント	オフィスワーク	観光	留学	プログラミング	メディアデザイン	科目の区分	開講年次				
				講義	演習	実験・実習・実技											1年		2年		
																	前期	後期	前期	後期	
専門教育科目	ビジネス情報コース	265114	ビジネス能力	○			2	○	○	○	○	○	○				資				○
		315125	デスクワーク入門	○			2	◎									資		○		
		315131	デスクワーク演習		○		1	◎									資		○		
		315141	ビジネスマナー入門A	○			2	◎									基	○			
		315141	ビジネスマナー入門B	○			2		◎								基		○		
		225145	人事のしくみ	○			2	○									応			○	
		225150	現代ビジネス事情	○			2	◎									発				○
		225171	データ分析演習		○		1	◎									発				○
		R65180	事務職のためのAI活用(VBA)	○			2	○									発				○
		315185	MOS実践	○			2	○									資			○	
		285190	オペレーションズリサーチ	○			2	○	○						○	○	発				○
	経理・金融コース	R65232	商業簿記	○			2		◎								資		○		
		225245	中級簿記	○			2	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	発			○	
		245247	上級簿記	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	資				○
		225235	工業簿記	○			2	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	発			○	
		225241	原価計算論	○			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	資				○
		225261	金融経済入門	○			2		◎								基			○	
		R35271	FP基礎論	○			2	○	◎	○	○	○	○				資	○			
		R35765	PC経理実務	○			2	○	◎	○	○	○	○				応				○
		305280	FP実践	○			2	○	○	○	○	○	○				資			○	
	ショッピングマネジメント	225325	マーケティング論	○			2			◎							応			○	
		265300	マーケティング戦略論	○			2			◎							発				○
		255385	消費者行動論	○			2			◎							応			○	
		265350	ショッピングマネジメント論	○			2			◎							基		○		
		225360	広告デザイン論	○			2			○						○	応				○
		275310	商品・販売企画論	○			2	○	○	○	○	○	○				応				○
		R65830	ファッション販売論	○			2			○							基	○			
		R65835	ファッションコーディネート演習		○		1			○							応			○	
オフィスワーク科目	R65405	ビジネスマナー演習		○		1	○	○	○	◎	○					基		○			
	225400	コミュニケーション総論	○			2				◎						基		○			
	265600	秘書ビジネス論	○			2				◎						資		○			
	R65440	オフィスワーク演習		○		1				◎						応			○		
	225445	オフィスプレゼンテーション		○		1	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	応			○		
	265455	現代社会コミュニケーション論	○			2	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	発			○		
	235465	組織心理学	○			2	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	発				○	
	225470	言語表現とコミュニケーション	○			2				◎						基	○				
観光ビジネスコース科目	225475	観光概論	○			2						◎	◎			基			○		
	225495	観光ビジネス論	○			2						◎	◎			応				○	
	225500	ホスピタリティー論	○			2						◎	◎			応			○		
	315510	イングリッシュ・コミュニケーション	○			2							◎			基	○				
	315515	観光英会話		○		1						◎	◎			基			○		
	R55520	イングリッシュ・プレゼンテーション		○		1						◎	◎			応				○	
	315540	オーストラリア研究	○			2						○				基			○		
	315540	オーストラリア研究(留)	○			2							◎			基	○				
	225545	旅程管理特講	○			2						○	○			資			○		
	225555	観光地理	○			2						◎	○			資	○				
	315775	旅行業約款	○			2						◎	○			資	○				
	315780	旅行業法	○			2						◎	○			資	○				
R25810	国内旅行実務	○			2						◎	○			資	○					

総合ビジネス・情報学科 教育課程表(2024年度入学生)

区 分		コ ー ド	授 業 科 目	授 業 種 別			単 位 数	ビ ジ ネ ス 情 報	経 理 ・ 金 融	シ ョ ッ プ マ ネ ジ メ ン ト	オ フ ィ ス ワ ー ク	観 光	留 学	プ ロ グ ラ ミ ン グ	メ デ ィ ア デ ザ ィ ン	科 目 の 区 分	開 講 年 次				
				講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技											1 年		2 年		
																	前 期	後 期	前 期	後 期	
専 門 教 育 科 目	観 光 ビ ジ ネ ス 科 目	225570	実 用 英 会 話 I (R)	○			2						○			基		○			
		225575	実 用 英 会 話 II (R)	○			2							○			応		○		
		225585	実 用 英 作 文 (R)	○			2							○			基		○		
		225590	時 事 英 語 (R)	○			2							○			応		○		
		225535	比 較 文 化 (R)	○			2							○			発		○		
		225595	海 外 ボ ラ ン テ ィ ア 演 習 (R)		○		1							○			発		開講せず		
	情 報 メ デ ィ ア コ ー ス 科 目	R55675	プ ロ グ ラ ミ ン グ 応 用 演 習		○		1								◎		応		○		
		R55680	組 み 込 み プ ロ グ ラ ミ ン グ 演 習		○		1								◎		応		○		
		285615	J a v a プ ロ グ ラ ミ ン グ 演 習		○		2								◎		応			○	
		285625	L i n u x	○			2								◎		基			○	
		285640	ゲ ー ム デ ザ イ ン	○			2								○	○	応			○	
		R35645	社 会 人 の た め の A I 活 用 入 門	○			2								○	○	応				○
		R55815	社 会 で 役 立 っ プ ロ グ ラ ミ ン グ 思 考	○			2								◎	○	応				○
		285650	基 本 情 報	○			2								○		資	○			
		285655	情 報 処 理 シ ス テ ム	○			2								○		資	○			
		285660	プ ロ ジ ェ ク ト マ ネ ー ジ メ ン ト	○			2								○		資		○		
		285665	シ ス テ ム 開 発	○			2								○		資		○		
		285670	情 報 セ キ ュ リ テ ィ	○			2								○		資		○		
		R25675	I o T		○		2								◎		応				○
		R25785	プ ロ ジ ェ ク ト 実 践 I	○			2								◎	◎	基	○			
		R25790	プ ロ ジ ェ ク ト 実 践 II		○		2								◎	◎	基		○		
		R25795	プ ロ ジ ェ ク ト 実 践 III	○			2								◎	◎	応			○	
		R25800	プ ロ ジ ェ ク ト 実 践 IV		○		2								◎	◎	発				○
		285700	デ ザ イ ン 論	○			2									◎	基	○			
		285705	コ ン プ ュ ー タ 基 礎	○			2								○	○	基	○			
		285715	ビ ジ ュ アル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	○			2									◎	基		○		
		285720	映 像 表 現	○			2									○	応				○
		285740	デ ー タ 活 用	○			2	○	○						○	○	応			○	
		R35035	C G 基 礎		○		1								○	◎	基	○			
		285745	C G 理 論	○			2									◎	資		○		
	285755	C A D 概 論	○			2									○	応			○		
	285760	W E B プ ロ グ ラ ミ ン グ	○			2								○	○	応			○		
日 本 語 科 目	233700	日 本 語	○			2										基	○	○			
	233705	日 本 事 情 I	○			2										基			○		
	233710	日 本 事 情 II	○			2										基				○	

注1 コース・フィールド名の欄に◎が付いている科目は、そのコース・フィールドに所属している学生にとって必修。

注2 コース・フィールド名の欄に○が付いている科目は、そのコース・フィールドに所属する学生は選択可能。

しかし、授業運営上、人数制限することがある。

Ⅳ 教 育 課 程 表

生活プロデュース学科

2024年度入学生

生活プロデュース学科 教育課程表(2024年度入学生)

区 分		コ ー ド	授 業 科 目	授業種別			単 位 数	フ ァ ッ シ ョ ン	フ ー ド	イ ン テ リ ア デ ザ イ ン	子 ど も サ ー ビ ス	医 療 事 務 ・ 情 報	資格必修 メ デ ィ カ ル ク ラ ー ク 任 用 資 格 主 事	専 門 科 目 の 区 分	ナ ン バ リ ン グ	開 講 年 次				
				講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技										1 年		2 年		
																前 期	後 期	前 期	後 期	
リ ベ ラ ー ア ー ツ 科 目	必修 科目 群	22LA00	日 本 語 リ テ ラ シ ー I	○			2	◎	◎	◎	◎	◎			基	110	○			
		22LA02	日 本 語 リ テ ラ シ ー II	○			2	◎	◎	◎	◎	◎			基	110		○		
		R6LA04	情報リテラシー(データサイエンス入門)	○			2	◎	◎	◎	◎	◎			基	110	○			
		22LA08	生 涯 ス ポ ー ツ と 健 康 I			○	1	◎	◎	◎	◎	◎			基	110	○			
		22LA10	生 涯 ス ポ ー ツ と 健 康 II			○	1	◎	◎	◎	◎	◎			基	110		○		
ラ ル ア ー ツ 科 目	選 択 科目 群	R5LA50	湘北スタートアップセミナー	○			1	○	○	○	○	○			基	110	○			
		R5LA15	ビジネスに役立つ教養とDX	○			2	○	○	○	○	○			基	110		○		○
		R6LA60	社会生活のための基礎知識	○			2	○	○	○	○	○			基	110		○		○
		31LA70	日本語コミュニケーション	○			2	○	○	○	○	○			発	130			○	
		22LA24	現 代 社 会 と 倫 理	○			2	○	○	○	○	○			発	120			○	
		22LA26	社 会 と 環 境	○			2	○	○	○	○	○			発	120		○		○
		25LA35	メ デ ィ ア 論 A	○			2	○	○	○	○	○			発	130			○	
		25LA35	メ デ ィ ア 論 B	○			2	○	○	○	○	○			発	130		○		○
		31LA75	フ ァ ッ シ ョ ン 文 化 論	○			2	○	○	○	○	○			発	120		○		○
		R6LA01	日 本 の 食 文 化	○			2	○	○	○	○	○			発	130		○		○
		R6LA03	住 環 境 デ ザ イ ン	○			2	○	○	○	○	○			発	130		○		○
		R6LA07	体験から学ぶ身近な心理学	○			2	○	○	○	○	○			発	130		○		○
		R6LA09	いのちをめぐる科学技術	○			2	○	○	○	○	○			発	130		○		○
		R6LA11	湘北リベラルアーツⅠ	○			2	○	○	○	○	○			発	130	○		○	
		R6LA13	湘北リベラルアーツⅡ	○			2	○	○	○	○	○			発	130		○		○
R3LA80	暮らしの中のテクノロジー	○			2	○	○	○	○	○			発	120		○		○		
R3LA85	SNS と ダ イ バ ー シ テ ィ	○			2	○	○	○	○	○			発	120		○		○		
国 際 理 解 科 目		26GC01	ジェネラル・イングリッシュⅠ		○		1	◎	◎	◎	◎	◎			基	210	○			
		26GC02	ジェネラル・イングリッシュⅡ		○		1	◎	◎	◎	◎	◎			基	210		○		
		26GC20	エッセンシャル・イングリッシュ		○		1	○	○	○	○	○			発	220			○	
		26GC40	アドヴァンス・イングリッシュⅠ		○		1	○	○	○	○	○			発	230			○	
		26GC41	アドヴァンス・イングリッシュⅡ		○		1	○	○	○	○	○			発	230				○
		30GC50	T O E I C (初 級) A		○		1	○	○	○	○	○			資	240		○		○
		30GC50	T O E I C (初 級) B		○		1	○	○	○	○	○			資	240	開講せず			
		30GC51	T O E I C (中 級)		○		1	○	○	○	○	○			資	240			○	
		R6GC60	海 外 研 修			○	2	○	○	○	○	○			発	230	○		○	
		R6GC70	中 国 語 (基 礎)		○		1	○	○	○	○	○			基	210			○	
		R6GC06	中 国 語 (実 践)		○		1	○	○	○	○	○			発	210	開講せず			
		R4GC71	韓 国 語		○		1	○	○	○	○	○			基	210				○
R4GC90	ベーシック・ビジネス英語	○			2	○	○	○	○	○			発	230				○		
シ ン プ タ 科 目		26IS02	春季インターンシップ(長期)			○	2	○	○	○	○	○			発	320		○		
		26IS04	春季インターンシップ(短期)			○	1	○	○	○	○	○			発	320		○		
		26IS05	インターンシップリテラシー	○			1	○	○	○	○	○			基	310		○		
		30IS06	インターンシップティーチング		○		1	○	○	○	○	○			発	330				○
就 業 力 育 成 科 目		R5BU01	私 の キャ リ ア デ ザ イ ン	○			2	◎	◎	◎	◎	◎	○		基	410	○			
		26BU02	キャリアベーシック(SPI)	○			2	○	○	○	○	○			基	410		○		
		R5BU05	私の就職活動プランニング		○		1	○	○	○	○	○			発	420		○		
		26BU04	キャリアブラッシュアップ	○			2	○	○	○	○	○			発	430				○
		30BU06	基礎教養のための数学演習		○		1	○	○	○	○	○			基	410	○			
		R5BU10	仕事に役立つPC演習(基礎)A		○		1	○	○	○	○	○			基	410			○	
		R5BU10	仕事に役立つPC演習(基礎)B		○		1	○	○	○	○	○			基	410				○
		R5BU07	仕事に役立つPC演習(応用)A		○		1	○	○	○	○	○			発	420			○	
		R5BU07	仕事に役立つPC演習(応用)B		○		1	○	○	○	○	○			発	420				○
		R3BU08	証 券 外 務 実 践	○			2	○	○	○	○	○			資	440				○
		R6BU09	PC 活 用 ベ ー シ ャ ッ ク I		○		1	◎	◎	◎	◎	◎			基	410	○			
R6BU11	PC 活 用 ベ ー シ ャ ッ ク II		○		1	○	○	○	○	○			基	410		○				

生活プロデュース学科 教育課程表(2024年度入学生)

区分		コード	授業科目	授業種別			単 位 数	ファッ ション	フー ド	インテ リアデ ザイン	子ども サービス	医療 事務・ 情報	資格必修 メデイ カルク ラーク 社会福 祉主事 任用資 格	専門科目 の区分	ナン バ リ ン グ	開 講 年 次						
				講 義	演 習	実験・ 実習・ 実技										1 年		2 年				
																前 期	後 期	前 期	後 期			
専門 教育 科目	共通 必修 科目	R52025	ライフスタイルマネジメントの基礎	○			2	◎	◎	◎	◎	◎			基	510	○					
		R42880	生 活 と SDG s	○			2	◎	◎	◎	◎	◎			基	510	○					
		R52890	く ら し の 中 の DX				2	◎	◎	◎	◎	◎			基	510		○				
		302045	ライフキャリアプランニング		○		1	◎	◎	◎	◎	◎			基	510		○				
		262515	オ フ ィ ス ワ ー ク 演 習		○		1	◎	◎	◎	◎	◎	○		基	510		○				
		302035	ゼ ミ ナ ー ル I	○	○	○	2	◎	◎	◎	◎	◎			基	510			○			
		302040	ゼ ミ ナ ー ル II	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎			応	520				○		
		R52045	ライフスタイルマネジメント	○			2	◎	◎	◎	◎	◎			応	520				○		
	共通 選択 科目	222095	ラッピングコーディネート演習		○		1	○	○	○	○	○			基	510	○					
		302505	現 代 女 性 の 社 会 学	○			2	○	○	○	○	○			基	510			○			
		222445	サ ー ビ ス 介 助 演 習 A		○		1	○	○	○	○	○			資	540		○				
		222445	サ ー ビ ス 介 助 演 習 B		○		1	○	○	○	○	○			資	540				○		
		242387	接 客 サ ー ビ ス 特 講	○			2	○	○	○	○	○			応	520		○				
		R52895	SDGs と 社 会 デ ザ イン	○			2	○	○	○	○	○			応	510		○				
	専 門 教 育 科 目	専 門 教 育 目	252050	色 彩 学 A	○			2	◎		○	○				基	510	○				
			252050	色 彩 学 B	○			2		○	○	○	○				基	510			○	
			222090	フ ァ ッ シ ョ ン 販 売 論	○			2	◎	○	○	○	○				基	510	○			
			282085	パ ー ソ ナ ル カ ラ ー 入 門		○		1	○	○	○	○	○				基	510	○			
R62055			テ キ ス タ イ ル の 基 礎	○		○	2	◎	○	○	○	○				基	510	○				
R62910			メ イ ク 理 論	○			2	○	○	○	○	○				資	540	○				
222060			子 供 服 と 小 物 の 演 習		○		1	◎	○	○	○	○				基	510		○			
222070			フ ァ ッ シ ョ ン デ ザ イン 論	○			2	○	○	○	○	○				基	510		○			
282660			フ ァ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス 論	○			2	○	○	○	○	○				応	520		○			
312680			ブ ラ イ ダ ル コ ー デ ィ ネ ー シ ョ ン I	○			2	○	○	○	○	○				資	540		○			
312115			ア パ レ ル メ イ キ ン グ 演 習		○		1	○	○	○	○	○				応	520			○		
222135			フ ァ ッ シ ョ ン コ ー デ ィ ネ ー ト 演 習		○		1	○	○	○	○	○				応	520			○		
R22065			フ ァ ッ シ ョ ン デ ザ イン 演 習		○		1	○			○					基	510			○		
282665			フ ァ ッ シ ョ ン と 心 理	○			2	○	○	○	○	○				応	520				○	
R22710			ア パ レ ル 企 画 論	○			2	○	○	○	○	○				応	520				○	
222145			フ ァ ッ シ ョ ン プ ロ デ ュ ー ス		○		1	◎	○	○	○	○				発	530				○	
専 門 教 育 目		222130	リ ビ ン グ ケ ア	○			2	○	○	○	○	○				基	510				○	
		312155	ブ ラ イ ダ ル コ ー デ ィ ネ ー シ ョ ン II	○			2	○	○	○	○	○				資	540				○	
		R32160	食 生 活 と 健 康	○			2	○	◎	○	○	○				基	510	○				
		232165	ク ッ キ ン グ I A			○	2		◎							基	510	○				
		232165	ク ッ キ ン グ I B			○	2	○		○	○	○				基	510	○				
		282170	フ ー ド コ ー デ ィ ネ ー ト 基 礎	○			2	○	○	○	○	○				基	510	○				
		R22180	栄 養 学	○			2	○	◎	○	○	○		○		基	510		○			
		232215	ク ッ キ ン グ II			○	2	○	○	○	○	○				応	520		○			
		262620	食 空 間 プ ラ ン ニ ン グ	○			2		○	○						応	520		○			
		312185	健 康 科 学	○			2	○	◎	○	○	○				基	510		○			
		R62915	食 の 情 報 発 信	○			2	○	○	○	○	○				応	510		○			
		282650	食 空 間 コ ー デ ィ ネ ー ト		○		1		○	○						資	540			○		
		R22715	ラ イ フ ス テ ー ジ と 食 物	○	○		2	○	○	○	○	○				応	520			○		
		262220	食 の 企 画		○		1	○	◎	○	○	○				応	520			○		
		R22205	食 品 と 調 理	○			2	○	○	○	○	○				基	510				○	
		222225	食 品 衛 生 学	○			2	○	◎	○	○	○				基	510				○	

生活プロデュース学科 教育課程表(2024年度入学生)

区 分	コ ー ド	授 業 科 目	授業種別			単 位 数	フ ァ ッ シ ョ ン	フ ー ド	イン テ リ ア デ ザ イン	子 ど も サ ー ビ ス	医 療 事 務 ・ 情 報	資格必修 医療事務 ・ メディカルクラーク ・ 社会福祉主事 任用資格	専門科目の区分	ナン バ リ ン グ	開 講 年 次			
			講 義	演 習	実験・実習・実技										1 年		2 年	
															前期	後期	前期	後期
専 門 																		

Ⅳ 教 育 課 程 表

保 育 学 科

2024年度入学生

保育学科 教育課程表(2024年度入学生)

区 分	コ ー ド	授 業 科 目	授業種別			単 位 数	必 修	資 格			選 択	科 目 の 区 分	開 講 年 次			
			講 義	演 習	実 験・実 習・実 技			幼 稚 園 必	保 育 士 必	社 会 福 祉 主 事 必			1 年		2 年	
													前 期	後 期	前 期	後 期
ア リ ー ン ス 科 目	必修	22LA02	日 本 語 リ テ ラ シ ー II	○			2	○		○		基		○		
	選択	R4LA50	湘北スタートアップセミナー	○			1				○	基	○			
		22LA24	現 代 社 会 と 倫 理	○			2			△	○	応			○	
国 際 理 解 科 目		26GC10	英 語		○		2	○	○	○		基	○	○		
		R6GC60	海 外 研 修			○	2				○	発				
就 業 力 育 成 科 目		30BU06	基礎教養のための数学演習		○		1				○	基	○			
		26BU02	キャリアベーシック（SPI）		○		2				○	基		○		
保 健 体 育 科 目		233100	体 育 実 技 / 理 論	○		○	2	○	○	○		基	○	○		
	基 礎 門	233105	日 本 国 憲 法	○			2		○	○		基	○			
R63115		保育のためのICT・DX入門Ⅰ		○		1	○	○	△		基	○	○			
R63120		保育のためのICT・DX入門Ⅱ		○		1	○	○	△		基			○	○	
303121		現代の人間関係分析	○			2			△	○	基	○				
専 門 理 解	目 的	233125	社 会 福 祉	○			2	○		○	○	基	○			
		313135	子 ど も 家 庭 福 祉	○			2	○		○	○	基	○			
		233140	保 育 原 理	○			2	○		○	○	基	○			
		313145	社 会 的 養 護 I	○			2	○		○		基		○		
		233150	教 育 原 理	○			2	○	○	○		基	○			
		313160	教 職 概 論	○			2		○	□		基			○	
		233162	保 育 者 論	○			2	○		○		基				○
		313610	教 育 の 制 度 と 経 営	○			2		○			基				○
教 象 理 解	対 象	313175	保 育 の 心 理 学	○			2	○	○	○		基	○			
		313180	子ども の 理 解 と 援 助		○		1	○		○		応		○		
		313615	子ども家庭支援の心理学	○			2			○		応			○	
		313185	子 ど も の 保 健	○			2			○		基			○	
		313190	子ども の 健 康 と 安 全			○	1			○		応				○
		233195	子ども の 食 と 栄 養		○	○	2			○		応				○
		313200	子ども家庭支援論	○			2			○		応				○
		233205	青 年 心 理 学	○			2			□	○	発				○
育 科 目	内 容 ・ 方 法	313155	保 育 ・ 教 育 課 程 論	○			2	○	○	○		基		○		
		313210	保 育 内 容 総 論		○		2		○	○		基	○	○		
		233215	健 康 の 指 導		○		1		○	○		応				○
		233220	環 境 の 指 導		○		1		○	○		応	○	○		
		233225	人 間 関 係 の 指 導		○		1		○	○		応			○	○
		233230	言 葉 の 指 導		○		1		○	○		応	○			
		233235	表 現 の 指 導		○		1		○	○		応			○	
		313620	乳 児 保 育 I		○		2	○		○		応	○			
		313625	乳 児 保 育 II			○	1			○		応		○		
		233245	地 域 子 育 て 支 援 論		○	○	1			□	○	発				○
		313250	特別支援教育(障害児保育を含む)		○		2		○	○		応	○	○		
		313255	社 会 的 養 護 II		○		1			○		応			○	
		233265	表 現 の 指 導（造形）		○		1			○		発			○	
		233270	児 童 文 化	○			2			□	○	発	開講せず			
		233275	教 育 方 法 論	○			2		○			応		○		
		313280	幼 児 の 理 解 と 相 談	○			2		○			応			○	
313285	子 育 て 支 援		○		1			○		応			○	○		

保育学科 教育課程表(2024年度入学生)

区 分	コ ー ド	授 業 科 目	授業種別			単 位 数	必 修	資 格			選 択	科 目 の 区 分	開 講 年 次			
			講 義	演 習	実 験・実 習・実 技			幼 稚 園 必	保 育 士 必	社 会 福 祉 主 事 必			1 年		2 年	
													前 期	後 期	前 期	後 期
専 門 教 育 科 目	基 礎 技 能	313295	造 形 表 現	○		2	○	○	○			基	○	○		
		R23300	造 形 表 現 II	○		1			□		○	応				○
		313305	身 体 表 現	○		2	○	○	○			基	○	○		
		R23310	音 楽 実 技 I	○		2	○		○			基	○	○		
		R23305	身 体 表 現 II		○	1			□		○	応			○	○
		313320	音 楽 表 現	○		2		○	□			応	○	○		
		R23325	音 楽 実 技 II		○	2			□		○	発			○	○
	総合演習	233400	保育・教職実践演習(幼稚園)		○	2		○	○			資				○
	実 習	263500	教 育 実 習		○	4		○				応			○	
		263505	教 育 実 習 指 導		○	1		○				基			○	
		233510	保 育 実 習 I (保 育 所)		○	2			○			応		○		
		233515	保 育 実 習 I (施 設)		○	2			○			応		○		
		233520	保 育 実 習 指 導 I		○	2			○			基	○	○		
		233525	保 育 実 習 II		○	2			◎		○	発				○
		233530	保 育 実 習 指 導 II		○	1			◎			基			○	
		233535	保 育 実 習 III		○	2			■		○	発				○
		233540	保 育 実 習 指 導 III		○	1			■		○	基			○	
	その他	R33600	保 育 実 践 研 究		○	2	○					発			○	○
		233605	進 路 ・ 生 活 指 導		○	1	○					発			○	○
日 本 語 科 目	233700	日 本 語	○		2											
	233705	日 本 事 情 I	○		2											
	233710	日 本 事 情 II	○		2											

注1:保育士資格を取得するには、□科目から2単位以上選択必修。

◎科目(2科目)または■科目(2科目)から3単位以上選択必修。

△科目(4科目)から2単位以上選択必修。

注2:リベラルアーツ科目については、2単位以上取得すること。

数理・データサイエンス・AI 教育推進ワーキンググループ設置要綱

(設置目的)

第1条 湘北短期大学（以下「本学」という。）は、本学学生に広く実施され、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成するために必要な知識及び技術を体系的に修得させる教育プログラム（プログラム名称「湘北 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」。以下「当教育プログラム」という。）を全学的に推進するため、数理・データサイエンス・AI 教育推進ワーキンググループ（以下「WG」という。）を設置する。

(所管事務)

第2条 WG は、次の業務を所管する。

- (1) 当教育プログラムの具体的な内容に関する協議・検討
- (2) 当教育プログラムの計画（当教育プログラムにおいて身に付けることのできる能力、修了要件、開設される授業科目、授業の方法、及び内容等）の策定並びに実施体制の構築、及びそれらの公表
- (3) 学生に対し当教育プログラムの履修を促す取組の協議・検討、及び実施
- (4) 当教育プログラムについての点検及び評価、その結果の公表
- その他、当教育プログラムに関して学長が求める事項

2 前項による業務は学長に報告するものとする。なお、当教育プログラムに関して重要な決定又は変更を伴う場合には、学長は教授会及び常勤理事会に諮問するものとする。

(構成員)

第3条 WG は、次に掲げる者で構成する。

- (1) リベラルアーツセンター長、及び教務・学生部長
- (2) IR 室長
- (3) 各学科長から指名された教員 3 名程度
- (4) 教務・学生部職員 2 名程度
- (5) その他、必要に応じて各学科長、各センター長から指名された教員 若干名

2 WG に責任者及び副責任者を置き、それぞれリベラルアーツセンター長、教務・学生部長をもって充てる。

(会議)

第4条 WG は、責任者が召集し、議長を務める。

2 WG は、年2回定期的に開催するほか、必要に応じて臨時に開催する。

3 責任者が必要と認めるときは、構成員以外の者に会議への出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。

(事務局)

第5条 WG の事務局は、教務・学生部とする。

(補則)

第6条 この要綱に定めるもののほか、WG の運営に必要な事項は学長が別に定める。

附則

1 この要綱は、2024 年4月1日から施行する。

数理・データサイエンス・AI 教育推進ワーキンググループ設置要綱

(設置目的)

第1条 湘北短期大学（以下「本学」という。）は、本学学生に広く実施され、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成するために必要な知識及び技術を体系的に修得させる教育プログラム（プログラム名称「湘北 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」。以下「当教育プログラム」という。）を全学的に推進するため、数理・データサイエンス・AI 教育推進ワーキンググループ（以下「WG」という。）を設置する。

(所管事務)

第2条 WG は、次の業務を所管する。

- (1) 当教育プログラムの具体的な内容に関する協議・検討
 - (2) 当教育プログラムの計画（当教育プログラムにおいて身に付けることのできる能力、修了要件、開設される授業科目、授業の方法、及び内容等）の策定並びに実施体制の構築、及びそれらの公表
 - (3) 学生に対し当教育プログラムの履修を促す取組の協議・検討、及び実施
 - (4) 当教育プログラムについての点検及び評価、その結果の公表
- その他、当教育プログラムに関して学長が求める事項

2 前項による業務は学長に報告するものとする。なお、当教育プログラムに関して重要な決定又は変更を伴う場合には、学長は教授会及び常勤理事会に諮問するものとする。

(構成員)

第3条 WG は、次に掲げる者で構成する。

- (1) リベラルアーツセンター長、及び教務・学生部長
- (2) IR 室長
- (3) 各学科長から指名された教員 3 名程度
- (4) 教務・学生部職員 2 名程度
- (5) その他、必要に応じて各学科長、各センター長から指名された教員 若干名

2 WG に責任者及び副責任者を置き、それぞれリベラルアーツセンター長、教務・学生部長をもって充てる。

(会議)

第4条 WG は、責任者が召集し、議長を務める。

2 WG は、年2回定期的に開催するほか、必要に応じて臨時に開催する。

3 責任者が必要と認めるときは、構成員以外の者に会議への出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。

(事務局)

第5条 WG の事務局は、教務・学生部とする。

(補則)

第6条 この要綱に定めるもののほか、WG の運営に必要な事項は学長が別に定める。

附則

1 この要綱は、2024 年4月1日から施行する。

大学等名	湘北短期大学	申請レベール	リテラシーレベル
教育プログラム名	湘北数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和7年度

プログラムの目的

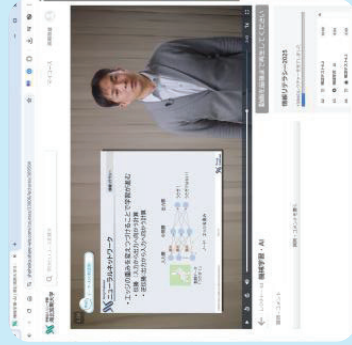
- 学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成すること

身につけられる能力

- 現代社会において必要となる数理・データサイエンス・AIの基礎的素養、知識、技能を主体的に身につけ、日常の生活や仕事等の場で実践的に活用することができる
- 数理・データサイエンス・AIの知識、技能の恩恵を享受できるようになるとともに、これらを活用するにあたっては、公平性・公正性の観点を常に持ち、人間中心の適切な判断や説明ができるようになる

開講科目

- 「情報リテラシー（データサイエンス入門）」
 - 1年次前期必修科目
 - 2単位
 - オンデマンド授業
- 「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」
 - 2年次隔週通年必修科目
 - 1単位
 - 面接授業



実施体制

- 「数理・データサイエンス・AI教育プログラムワーキンググループ」が以下の業務を所管し、プログラムを推進する
 - 当教育プログラムの具体的な内容に関する協議・検討
 - 当教育プログラムの計画(当教育プログラムにおいて身に付けることのできる能力、修了要件、開設される授業科目、授業の方法、及び内容等)の策定並びに実施体制の構築、及びそれらの公表
 - 学生に対し当教育プログラムの履修を促す取組の協議・検討、及び実施
 - 当教育プログラムについての点検及び評価、その結果の公表

修了要件

- 総合ビジネス情報学科及び生活プロデュース学科
→「情報リテラシー（データサイエンス入門）」の単位取得を要件とする
- 保育学科
→「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」の単位取得を要件とする



≪その他補足資料≫ 令和6(2024)年度 自己点検・評価結果

湖北短期大学WEBサイトに掲載

<https://www.shohoku.ac.jp/aboutus/mdash.html>

湖北教理・データサイエンス・AI教育プログラム 令和6(2024)年度 自己点検・評価結果

湖北短期大学
 教理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループ

学内からの視点	自己点検・評価体制に向けた取組等
学内からの視点 プログラムの履修・修得状況	教理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループおよび教務・学生課において本プログラムの履修・単位修得状況を分析している。令和6年度終了時点で、総合ビジネス・情報学科および生活プロフェッショナル学科の学生が受講できる「情報リテラシー(データサイエンス入門)」が終了している。単位修得率は87.9%(203/231名)であった。このうち、開講期前または開講後に休学もしくは退学した学生を除くと単位修得率は98.5%(203/206名)となる。
学修成果	担当教員はLMSを通じて学生の進捗を常に把握しており、担当教員および教理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループにおいて本プログラムの履修・単位修得状況を分析している。「情報リテラシー(データサイエンス入門)」は、全18回(動画・課題提出・小テストを含む全447チャター)のオンデマンド科目であり、LMSへのログイン状況、動画閲覧状況、課題提出状況を教員が常にモニタリングし、進捗の遅い学生にはメール等でリマインドした。学修成果を評価する小テストを25名程度に実施し、進捗の遅い学生はリマインドした。進捗の遅い学生はリマインドした。全レクチャーに取り組んだ学生は一定の学修成果を有していると考えられる。
学生アンケート等を通じて学生の 内容の理解度	教務・学生課において本教育プログラム受講者全員に対して授業改善アンケートを実施している。また、リベラルアーツセンターにおいて、オンデマンド科目の受講スタイルに関するアンケートを実施している。教理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループにおいて各アンケート結果を分析している。令和6年度の「情報リテラシー(データサイエンス入門)」においては、授業改善アンケートの結果「この授業の目的とする知識や技能、考え方が身についたか」「この授業を通して自分が以前より成長できたか」において、4段階評価で肯定的な意見が、それぞれ92%を超える結果となった。学生の自己評価として、各自が内容を理解できたと考えられる。
学生アンケート等を通じて教務等 他の学生への推薦度	令和6年度の「情報リテラシー(データサイエンス入門)」の授業改善アンケートの結果、授業の内容は興味深いものであったか」において、88.4%の肯定的な意見が得られた。授業等への推薦度を直接調査したわけではないが、多くの学生に取って必修する価値のある内容として受け入れられたと考えられる。
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムを構成する「情報リテラシー(データサイエンス入門)」および「保育のためのICT・DX入門Ⅱ」は、各学科の卒業要件に含まれる必修科目として開講している。
学外からの視点	本教育プログラムを修了した学生が卒業するのが令和7年度末が初めてとなり、進路についても今後判明する状況である。
教育プログラム修了者の進路、 活躍状況、企業等の評価	本卒業生がターゲットとする就職先の内、事務職やSEはもとより、人と人とのコミュニケーションが重要視される接客業や保育の現場においても、本プログラムの学習内容が重要視されている。過去の卒業生アンケートに基づく顧客との対面コミュニケーションの円滑化や、生種センサーを利用した睡眠の安全確保など、質の高いサービスを提供の基盤が構築しつつある。生種AI関連技術の急速な発展も注視しつつ、学生にとって有益な情報を提供できるようプログラムの内容を、教理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループにおいて継続見直す。
教理・データサイエンス・AIは「学が 楽しい」「学がここの意義」を理解させる こと	本教育プログラムは、各学科必修科目のみで構成されており、もとより興味を持っていない学生も一定数含まれる。そのため、卒業生からの視点だけでなく、学生自身の身近な事例なども取り上げて、教理・データサイエンス・AIに関する知識やスキルを自然と理解できるような授業を展開している。結果として上述した複数の授業において肯定的な意見が得られたと考えられる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より 「分かりやすい」授業とすること	オンデマンド科目においては、授業資料提供から学外のインスタレーションデザイナーに協力を仰ぎ動画制作や課題設定を構築した。受講スタイルに関するアンケートから、オンデマンド形式に關して79.5%の肯定的な意見が得られた。授業改善アンケート等で得られた情報や、本教育プログラム以外の授業内容・スタイルにも参考し、分かりやすさの観点から授業およびプログラムの、教理・データサイエンス・AI教育推進ワーキンググループにおいて継続見直す。